

卒業生の書籍出版

1960 年度原子力工学専攻 2 期生卒業の川野修靖氏（かわののぶやす氏）が、「IAEA 査察官の最前線」2017 年 7 月 8 日第 5 版（増補版）を発行されました。東海大学の卒業生の中で唯一人の IAEA（国際原子力機関）査察官の経験者です。東海大学原子力工学専攻・ワンダーフォーゲル創立並びに IAEA 設立 60 周年に、「IAEA 査察官の最前線」（全 18 部）の執筆を 2015 年 8 月に開始し 2016 年 4 月 5 日処女作、引続き 2 版、新訂、4 版と発行しました。今回、内容の明確化を主眼に「訓練・査察の一覧表」を付加、写真、YouTube 作品、「はじめに」、「あとがき」を更新しました。3 マイルストーンを考慮し、査察官の緊張や癒しの中にも元気の出るノン・フィクション・ドキュメンタリー・ルポルタージュとして三景印刷（株）より第 5 版増補版を、81 歳時に自費出版・発行しました。

刺激的表現を控えながら、迫真力ある「**驚愕の事実**」をお確かめ下さい。

査察時の「**Serendipity**」（探していた物とは別の価値ある物を見つけ出すこと）と「**Intuition image memory ability**」（直観像記憶力）の影響は次の 2 つです。

●1981 年 10 月 19 日、先進国 MOX 製造事実のセレンディピティに係る受容により、1980 年既に動燃で研究開発し照射後試験に成功した MOX のプルサーマル利用が、愈々実用化し、商業用原子力発電所にてプルサーマルを行うことが可能となりました。2010 年着工した日本原燃 MOX 工場竣工予定は 2019 年度上期です。四電伊方 3 号機は 2016 年 8 月 22 日、仏製 MOX で運開しました。MOX 製造技術及びプルサーマル利用は Pu の核兵器転用の疑念を払拭しました。

●1981 年 12 月 6 日、「未知との遭遇」の先端技術の装置外観及びオペレーションを査察時に見た IAEA 査察官の直観像記憶力による再現を、施設者側が危惧しました。（88 頁、119 頁 16 行、144 頁、178 頁）この先端技術は、1981 年当時、先進各国が研究開発に、しのぎを削っていましたが、2017 年の現在は、金属材料を切断加工する産業技術として、世界中で用いられる公知の事実です。

筆者が、36 年前に、先端技術のオペレーションを目撃した「未知との遭遇」の迫真力ある状況を簡潔に述べましたが、敦賀市にある、JAEA レーザー共同研究所で、研究・開発が行われている、東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウンした、燃料デブリ取出しに期待される、レーザー溶断や破砕法への技術利用が「未知との遭遇」と重なり、36 年の遅れに感慨深いものがあります。

IAEA は原子力の平和利用を促進すると共に、原子力の軍事的利用への転用防止を目的に、核不拡散条約（NPT）に基づく査察活動を含む国際的保障措置等を行う、この活動がノルウェー・ノーベル委員会に評価され、2005 年にエルバラダイ IAEA 事務局長及び IAEA 組織にノーベル平和賞が授与されました。

◎本購入は、著者 川野 修靖へ直接ご連絡下さい。著書頒価は 5000 円です。

電子メールアドレス：n-kawano@sea.plala.or.jp